

## 2010年度（平成22年度）の温室効果ガス排出量（速報値）＜概要＞

速報値の算定について：温室効果ガスの排出量は各種統計の年報値に基づいて算定されるが、現時点では2010年度の年報値等は公表されていないものがある。そこで、2010年度の年報値等が公表されていないものについては、2009年度の年報値等を代用している。このため、今般とりまとめた速報値と2012年4月に報告予定の確定値との間には差が生じる可能性がある。

- 2010年度の日本の温室効果ガスの総排出量は、12億5,600万トン。
- 京都議定書の規定による基準年（CO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>、N<sub>2</sub>Oは1990年度、HFCs、PFCs、SF<sub>6</sub>は1995年）の総排出量と比べると、産業部門の二酸化炭素排出量が減少したことなどにより、総排出量としては0.4%の減少となっている。
- 前年度の総排出量と比べると、産業部門をはじめとする各部門の二酸化炭素排出量が増加したことなどにより、総排出量としては3.9%増加している。

### （参考）

- 前年度と比べて排出量が増加した原因としては、2008年に発生したリーマンショック後の景気後退からの回復の中で、製造業等の活動量の増加に伴い産業部門からの排出量が増えたこと、猛暑厳冬により電力消費が増加したことなどが挙げられる。

# 我が国の温室効果ガス排出量

2010年度における我が国の排出量は、基準年比 - 0.4%、前年比 + 3.9%

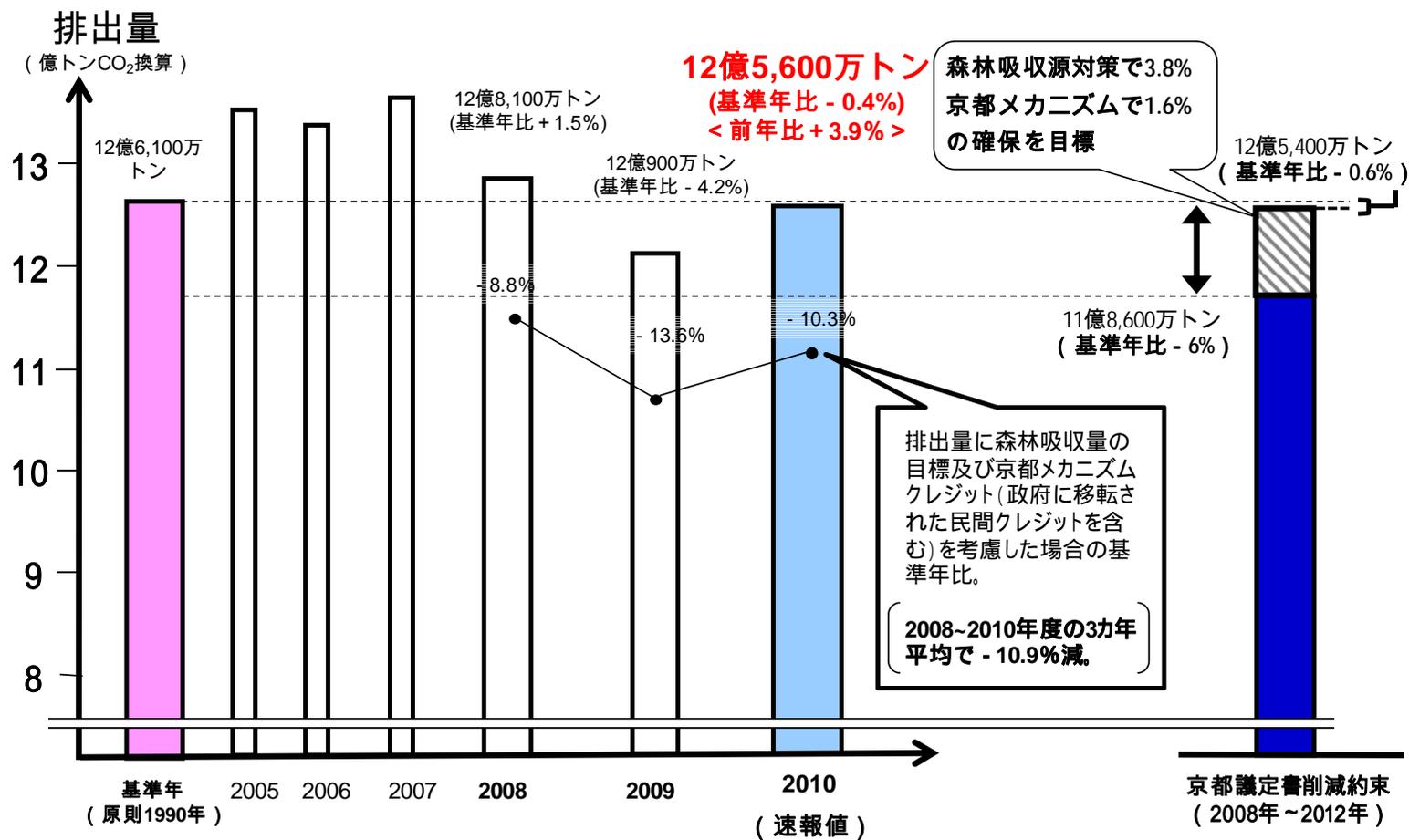


図1 我が国の温室効果ガス排出量

表1 温室効果ガスの排出量の基準年及び前年度との比較

|                          | 京都議定書の<br>基準年(シェア) | 2009年度<br>(基準年比)  | 前年度から<br>の変化率 | 2010年度<br>(基準年比) (シェア)   |
|--------------------------|--------------------|-------------------|---------------|--------------------------|
| 合計                       | 1,261<br>[100%]    | 1,209<br>(-4.2%)  | <+3.9%>       | 1,256<br>(-0.4%) [100%]  |
| 二酸化炭素(CO <sub>2</sub> )  | 1,144<br>(90.7%)   | 1,144<br>(+0.03%) | <+4.1%>       | 1,191<br>(+4.1%) (94.8%) |
| エネルギー起源                  | 1,059<br>[84.0%]   | 1,075<br>(+1.5%)  | <+4.4%>       | 1,122<br>(+6.0%) [89.4%] |
| 非エネルギー起源                 | 85.1<br>(6.7%)     | 69.2<br>(-18.6%)  | <-0.7%>       | 68.7<br>(-19.2%) (5.5%)  |
| メタン(CH <sub>4</sub> )    | 33.4<br>[2.6%]     | 20.6<br>(-38.2%)  | <-2.2%>       | 20.2<br>(-39.6%) (1.6%)  |
| 一酸化二窒素(N <sub>2</sub> O) | 32.6<br>[2.6%]     | 21.9<br>(-32.8%)  | <-3.2%>       | 21.2<br>(-34.9%) (1.7%)  |
| 代替フロン等3ガス                | 51.2<br>[4.1%]     | 21.7<br>(-57.7%)  | <+8.5%>       | 23.5<br>(-54.0%) (1.9%)  |
| ハイドロフルオロカーボン類(HFCs)      | 20.2<br>[1.6%]     | 16.6<br>(-18.1%)  | <+10.3%>      | 18.3<br>(-9.7%) (1.5%)   |
| パーフルオロカーボン類(PFCs)        | 14.0<br>[1.1%]     | 3.3<br>(-76.7%)   | <+4.2%>       | 3.4<br>(-75.7%) (0.3%)   |
| 六ふっ化硫黄(SF <sub>6</sub> ) | 16.9<br>[1.3%]     | 1.9<br>(-89.1%)   | <+0.6%>       | 1.9<br>(-89.0%) (0.1%)   |

(単位:百万t-CO<sub>2</sub>換算)

表2 各部門のエネルギー起源二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)排出量(電気・熱配分後)

|                           | 京都議定書の<br>基準年(シェア) | 2009年度<br>(基準年比) | 前年度から<br>の変化率 | 2010年度<br>(基準年比) (シェア)  |
|---------------------------|--------------------|------------------|---------------|-------------------------|
| 合計                        | 1,059<br>[100%]    | 1,075<br>(+1.5%) | <+4.4%>       | 1,122<br>(+6.0%) [100%] |
| 産業部門<br>(工場等)             | 482<br>(45.5%)     | 388<br>(-19.5%)  | <+8.5%>       | 421<br>(-12.7%) (37.5%) |
| 運輸部門<br>(自動車・船舶等)         | 217<br>(20.5%)     | 230<br>(+5.8%)   | <+0.9%>       | 232<br>(+6.8%) (20.7%)  |
| 業務その他部門<br>(商業・サービス・事業所等) | 164<br>(15.5%)     | 215<br>(+31.2%)  | <+0.5%>       | 217<br>(+31.9%) (19.3%) |
| 家庭部門                      | 127<br>(12.0%)     | 162<br>(+26.9%)  | <+6.8%>       | 173<br>(+35.5%) (15.4%) |
| エネルギー転換部門<br>(発電所等)       | 67.9<br>(6.4%)     | 80.0<br>(+17.9%) | <+0.1%>       | 80.1<br>(+18.0%) (7.1%) |

(単位:百万t-CO<sub>2</sub>)

【2009年度からのエネルギー起源二酸化炭素の増減の内訳】

産業部門（工場等）：3,300万トン（8.5％）増

- ・ 景気回復による生産量の増加に伴い製造業等からの排出量が増加。

運輸部門（自動車・船舶等）：210万トン（0.9％）増

- ・ 自家用乗用車及び貨物自動車・トラックからの排出量が増加。

家庭部門：1,100万トン（6.8％）増

- ・ 猛暑厳冬による電力消費の増加及び石油製品（灯油、LPG等）の消費の増加に伴う排出量が増加。

業務その他部門（商業・サービス・事業所等）：120万トン（0.5％）増

エネルギー転換部門（発電所等）：4万トン（0.1％）増

【2009年度からのエネルギー起源二酸化炭素以外の増減の内訳（二酸化炭素換算）】

非エネルギー起源二酸化炭素：50万トン（0.7％）減

- ・ 工業プロセス分野（セメント製造等）からの排出量が減少。

メタン（CH<sub>4</sub>）：40万トン（2.2％）減

- ・ 廃棄物分野（廃棄物の埋立等）及び農業分野（家畜の消化管内発酵、稲作等）からの排出量が減少。

一酸化二窒素（N<sub>2</sub>O）：70万トン（3.2％）減

- ・ 工業プロセス分野（アジピン酸製造等）からの排出量が減少。

ハイドロフルオロカーボン類（HFCs）：170万トン（10.3％）増

- ・ オゾン層破壊物質であるHCFCからHFCへの代替に伴い冷媒からの排出量が増加。

パーフルオロカーボン類（PFCs）：10万トン（4.2％）増

- ・ 洗剤・溶剤等からの排出量が増加。

六ふっ化硫黄（SF<sub>6</sub>）：1万トン（0.6％）増

- ・ 半導体製造等に伴う排出量が増加。